

採 点 講 評

英 語

総 評

高1アドバンスト英語では、リスニング、文法・語法、英作文、自由英作文、長文読解など多様な形式で出題し、基本的な文法・語法の知識から表現力・読解力・記述力などの程度ついているかを試すことで、総合的な英語力を測っている。制限時間に対する問題量が多く、厳しい内容になってはいるが、アドバンスト模試を受験する難関大の志望者であれば、高校1年生のこの時期に、これだけの問題に対応できる実力をしっかりつけてほしい。また、模試なので得点差がはっきり出るよう、設問によっては部分点を排除し、かなり厳しく採点している。得点を見て落ち込んでしまうかもしれないが、これから何を重点的に復習すれば自分の英語の総合力・得点力が伸びるかを知ることのできる絶好のチャンスなので、大問ごとの出来や誤答の内容をきちんと確認して、今後の学習につなげよう。

問題別講評・採点基準

① リスニング

英文の放送が始まる前に設問に目を通す時間を設けたので、注意して聞くべきキーワードやポイントをあらかじめ予測しておくことと取り組みやすい。

問題A

英問英答形式の設問であるため、聞き取る力以外に速読力も求められる。

(1) ボランティア活動の内容がいくつか出てきたが、その中で最初にしようと思ったものが問われているので情報の整理が必要。

問題B

オーストラリアでの研修についての案内。オーストラリアではイギリス英語が使われているので、放送文最後の方では centre というつりになっている。序盤に出てくるフィッシュアンドチップスはオーストラリア以外にイギリスでよく食べられることで有名な軽食で、主にタラなどの魚のフライにフライドポテトを添えたもの。

(1) と (5) の出来が悪い。

(1) では a が多めだが、現地の高校生だけでなく、パースの大学に通う学生も、オーストラリア出身の students である。

(5) 放送文全体を注意して聞く必要があったため、

難しかったと思われる。誤答では d が多め。

(6) 正答率はいずれも2~3割にとどまっている。

a「環境」を書けばよいとわかっていても、正しく書けないと得点できない。environment はつづり・発音とも難しい単語なのでよく注意する。

b 交通手段が問われているとわかっている解答も多かったが、plane, train, bus は不正解。

② 文法・語法・英作文

A 文法

(1) 誤答では圧倒的に c had lived が多い。基準になる過去があつてそれよりも前の時を表したい場合は過去完了を使うが、ここでは I was a child と「住んでいた」時は同じはずなので過去形が正しい。

(5) 誤答では d が多い。be used to doing と used to do の違いをしっかり押さえよう。

(6) レベルが高い問題だった。誤答は a が圧倒的。another のこの用法は少し上級。

(9) 動名詞の意味上の主語についての出題。これもレベルが高い問題だった。

B 整序英作文

語彙・文法の正確な知識と、それらを組み合わせて、条件に合った内容を英文で正しく表現する力を問うた。全体では、(2) と (3) に苦戦していた。

(2) the last を最初にもってこられた解答は多かったが、そのあとに動詞の happen をつなげてしまったものなどが目立ち、品詞も意識した文法学習が不十分だと感じた。

(3) ウイエオアカとしたものが散見された。助動詞を先頭に置くところまではよかったが、be 動詞のあとに形容詞ではなく doing を続けて cannot be choosing too careful in friends としたもののだが、「友人を選ぶ際に慎重になる」という意味にすべき。「…する際に」の意味の in doing という言い方を覚えておきたい。

C 和文英訳

④、⑥ともに以下に示すパートに分け、減点法で採点を行った。細かい文法ミスが目立ったので、短時間で見直しまで終える練習をしておこう。

④ 配点は以下のとおり。

○私は、元日には決まって、起きたらすぐに年賀状を読

む……4点

○のだが、最近年賀状がメールに取って代われつつあるのは残念だ……5点

「取って代われつつある」では進行形の意味合いを出したい。「取って代わる」の意味を表す言い方を確認しよう。この動詞を使えなかった場合は、e-mails are being sent instead of ~のように工夫することもできる。また、the number of people を主語にして who ... is increasing のようにできれば、それも許容。

⑥ 配点は以下のとおり。

○いくら時間がかかっても、年に1回ははがきを出したいと思う……6点

○特に遠くに住む友人には……3点

「いくら…しても」では‘譲歩’の表現を用いる。解答、別解以外にも、no matter how という表現が使えるので確認しておこう。「出したいと思う」は直訳して I think I want to とはしないこと。want 一語で「…したいと思う」の意味をもつ。「特に」は、「友人」を修飾することがわかる語順を工夫したい。

③ 長文読解

ロックフェラーセンターに据えるクリスマスツリーの選び方の基準やメンテナンスなどについて書かれた説明文。すべて選択式の客観式設問。

設問はどれも、細かい点ではなく大筋をつかめていれば正解できるレベルのものだが、日頃、長文を読み慣れていないと、英文を読んだあとでさらに英語での質問に答えるというのはハードルが高かっただろうか。基本的な設問だったが、意外に正解できていない印象だった。

(2) もっとも正解者が少なかった。誤答では **b** が圧倒的に多かった。candidate は高1では難語と言えるが、前後の文脈から「ツリーの候補」を指していると見当をつけてほしい。

(3) 誤答は割れていて、**c**、**d** が半分ずつ。

④ 長文読解

ナイジェリアの少女による語り。学校に通っていた女子生徒が結婚してから学校に来なくなってしまった、という文脈を読み取るのが難しかったかもしれない。国や地域によってはそのような状況におかれている女子がいる、というような地球規模の社会問題についても普段から目を向けていることは英語や現代文の読解のための強力な武器になる。

(2) 比喩の示す内容を問う問題。該当箇所を見つけることに苦労している様子が見えがえた。答えの手がかりは常に本文にある。丁寧に本文を読もう。

(3) 配点は以下のとおり。

○ He allows her to keep them in ~ ……5点

○ the room beside their bedroom where she will stay

with their baby ~ ……8点

○ after it is born. ……2点

keep them in を「彼らが部屋に残る」, the room beside their bedroom を「彼らの寝室」, allows her to keep them in 「彼女にとどまることを許した」など細部の訳をおろそかにしているものが見られる。where が導く節の訳脱にも注意しよう。先行詞が their bedroom ではなく、the room の方であることを確認しておこう。

(4) 配点は以下のとおり。

○ Will there be enough time to watch a love story and then an adventure ……5点

○ before it is time to go home and help Mama with the evening meal? ……5点

before 節の前後、a love story and then ~ の前後を逆に訳さないよう訳し方を確認しよう。「映画を見る前に帰って母の手伝いを～」では before の前後の節が逆である。「恋愛ものを見て、それから〔そのあとで〕冒険もの」の部分でも、2つの順番を逆にしない点に注意する。この then も「～してそれから…」という時間のずれを丁寧に訳出したい。

⑤ 自由英作文

文法・語彙と内容・構成の2つの観点に分けて採点した。指定語数に対する不足・超過については、5点の減点。ただし、指定語数の半分(25語)未満のものについては、文法・語彙点を与えていない。

○文法・語彙点 ……10点

誤りの数に応じて、10点を越えない範囲で減点している。

○内容・構成点 ……10点

内容に応じて、10点(減点なし)、7点(-3点)、4点(-6点)、0点(-10点)のいずれかの点数をつけている。以下のような答えは内容・構成点の減点対象となる。

- ・賛成・反対の理由が説得力に欠けるもの
- ・賛成・反対の論旨に一貫性がないもの
- ・同じ内容の繰り返しになっているもの

今回のテーマは、高校の夏休みに宿題があることの賛否を問うものだった。賛成例では「宿題がないと勉強しない」「勉強するのが高校生の役割だ」、反対例では「他の勉強ができない」「夏休みは休むときだ」といった理由が挙げられていた。文法面では homeworks, in summer vacation といったミスが目立った。「特定の期間の間」と言う場合には during を用いる。自分の英作文が採点されるいい機会だったと思うのでどこが間違っていたのか、どう表現したらよかったのか、しっかり見直しておくこと。

第2回 高1英語

総評

今回の試験では、総合的な英語力を測るため、リスニング、文法・語法、英作文、長文読解など多様な形式で出題している。基本的な文法・語法の正確な知識だけでなく、それらをもとに、伝えたいことを英語で表現する力や、英文を理解し、読み取った内容を的確にまとめる力を求めている。高2に向けて、これからは、英文1文ごとの理解だけでなく、パラグラフや英文全体の文脈を意識した読解練習をしてほしい。今回の結果は、総得点だけでなく大問ごとの出来や誤答の内容もきちんと確認しておこう。

問題別講評・採点基準

1 リスニング

ナチュラルな読み上げスピードによる放送であった。放送前に設問に目を通し、注意して聞くべきポイントをあらかじめ予測しておくことと取り組みやすかっただろう。また、特に計算が必要な設問は適宜メモを取りながら聞くこと。聞き取りにくかった箇所については、解答解説の放送内容を音読して復習しておこう。

A

英問英答形式の設問で、選択肢の英文がやや長いものもあり、英文を聞きながらの素早い判断が求められる。放送された英文自体は難解なものではないが、フィルの日々のスケジュールや、ハンナからのアドバイスなどについて正確に把握する必要があった。

B

Part 1

(2) 何と何の difference を問われているのかに注意。

(4) 設問指示 not を見落とさないこと。

Part 2

スペルミスの減点は各-1点であるが、単語の抜けや聞き間違いは配点分の減点とした。ディクテーションでは、語彙や文法の知識で減点が避けられる場合があるので、積極的に活用したい。

(1) 過去形の動詞に続く that 節の中に空所があることに注意。

(2) 前置詞 at の後の動詞の形に注意。

2 文法・語法

文法事項は、形容詞、関係詞、動詞、前置詞、副詞の用法、倒置など広い範囲を含めた。中には、イディオムになっているものもある。文法・語法の知識に加えて、文脈の把握が必要な設問も複数あったことに注意。

3 英作文

この大問では、語彙・文法の正確な知識と、それらを組み合わせて適切な英文を作り、表現する力を問うていた。

A 整序英作文

採点は、英文全体として意味を成さない解答は配点分の減点とした。

(1) 無生物主語構文が使用できることを判断したい。また、steady は本問では収入を修飾する「安定した」という意味だが、性格や態度、目標などが「しっかりしている」という意味でも用いられる。

(2) (get + A +過去分詞) で「Aを～の状態にしよう」という意味となる。この語順を正しく書いていない答案が多かった。しっかり覚えておくこと。

(3) All you have to do is ～, はよく使う表現なので、覚えておくことよい。

(4) what becomes of ～で「～がどうなるのか」という意味。of の位置を誤っている答案が多かったため、注意。

B 条件付き英作文

会話文の一部を埋める形式で、イラストの状況や空所前後の文脈のつながりを考えて書くことが条件。イラストから読み取れる情報を不足なく盛り込めていたか、言いたいことが採点者に伝わる英文だったか、返却された答案を振り返っておこう。

採点は、内容面と文法・語彙の面から減点法で行った。

(1) 「郷に入っては郷に従え」の意味を説明するには「(あなたは)その土地の習慣に従うべきである」というポイントを含める必要がある。ポイントを押さえているが文脈的に前後が繋がらない場合などは-2点、ポイントを押さえられていない場合は-4点とした。

(2) ①着物を着たこと、②茶会に行ったことの2点をポイントとし、どちらかが抜けていたり前後の

文脈が繋がらない場合は-3点とした。スペルミスや文法面でのケアレスミスをしないう、書き終えたら必ず見直すこと。

(3) イラストから読み取れる状況について正しく説明できているかどうかのポイントであった。イラストの一部分の説明に終始しているものは、説明不足として-3点とした。

C 和文英訳

(1), (2) とともに以下に示すパートに分け、減点法で採点を行った。

(1) ○最近、自転車通勤をしている人をよく見かけますが ……4点

○健康に気を遣う人が増えている証でしょう ……4点

「～証でしょう」を訳出していなかった答案が散見された。英訳の際は、日本文のニュアンスをすべて訳出できているか最後の見直しが重要。

(2) ○慣れないことをする前に ……4点
○自分の年齢とよく相談すべきだったので ……4点

「～と相談する」を直訳している答案が見られた。「～を考慮する」くらいに読み替えるなど、表面的な意味以上に日本文の意図に十分注意を払うこと。

4 長文読解

科学好きの男の子がハンバーガー店で女性が手話で話しているのを目にしたことをきっかけに、科学発表会での企画を思いつき、手話翻訳機を発明する話。発明にいたるまでの協力者についての情報や発明の具体的な内容も盛り込まれている。

主人公であるライアン・パターソンの発明に関して正しく把握することが大切である。設問で取り上げた下線部は内容理解において重要な箇所なので、復習の際は誤りの選択肢についてもよく読み、どこが本文と異なるのかをはっきりさせておくと理解が深まるだろう。

(4) ②本文の説明に基づいて、「何を」「どうする」という内容を解答に含めること。match A with Bで「AをBに照合する」という意味なので、AとBの関係性を逆に取らないよう注意したい。

(5) 以下に示すパートに分け、減点法で採点した。

○ If I can make an innovative device that could help people out ……4点

○ particularly people with disabilities ……2点

○ I'll feel as though I've made a difference

……3点

as though …で「あたかも…のように」の意。仮定の意味合いがまったく出せていない場合は減点対象とした。

5 長文読解

クジラの親子のやりとりをもとに展開される、シニカルかつ抽象度の高い話であった。まずは文章の流れに沿って、それぞれの発言を正確に理解することが大切である。復習の際は、ダミー選択肢についてもよく読んで、どこが本文と異なるのかをはっきりさせておくと理解が深まるだろう。また、この文章の“The Great Whale’s Mistake”という題名についても、何が“mistake”であったのかを考えてみてほしい。

(3) 車が浜辺を走りながら、植物や鳥の巣を駄目にし、ゴミをまき散らしている様子が本文では述べられている。

(4) 誤答は a が多かったが、実際、母クジラと父クジラのどちらが厚い信仰心を持っていたかまでは言及されていない。

(5) b もまぎらわしかったが、クジラは人間に邪魔をされない場所を探していたとは述べられていないことに注意。

第3回 高1英語

総評

今回の試験では、総合的な英語力を測るため、リスニング、文法・語法、英作文、長文読解など多様な形式で出題している。基本的な文法・語法の正確な知識だけでなく、それらをもとに、伝えたいことを英語で表現する力や、英文を理解し、読み取った内容を的確にまとめる力を求めている。高2に向けて、これからは、英文1文ごとの理解だけでなく、パラグラフや英文全体の展開を意識した読解練習をしてほしい。今回の結果は、総得点だけでなく大問ごとの出来や誤答の内容もきちんと確認して、今後重点的に学習していくべき内容を押さえておこう。

問題別講評・採点基準

1 リスニング

会話文、説明文ともに、分量の多い英文だったため、メモを取るのに苦戦した受験生が多かっただろう。放送前に設問にざっくりとでも目を通し、注意して聞くべきポイントをあらかじめ予測しておく取り組みやすい。聞き取りにくかった箇所については、解答解説の放送内容を音読して復習しておこう。

問題A

読み上げのスピードが実際の日常会話並みだったため、メモを取るのに苦戦した受験生が多かっただろう。英問英答形式の設問で、選択肢の英文がやや長いものもあるため、放送前に設問を確認したかどうかで差がついたと思われる。フレッドとスーザンの近況や、スーザンからのアドバイス、会話が繰り広げられている場所など様々な情報について正確に把握する必要があった。

(2) One is reading books. You should read widely and *deeply*. につられて *deep thinking* を含む a を選んだ誤答が大半を占めた。聞こえてくるキーワードが含まれる選択肢を選ぶのではなく、その選択肢の内容が正しいかという観点で選択肢を吟味すること。また、発言内容が少し後で訂正や補足をされていないかにも注意して聴くとよい。

問題B

中高生を対象とした市立美術館のイベントに関する説明文。

Part 1

(1) こちらも放送された 400 という数字をそのまま選んだ誤答が多かった。選択肢に数字があるからといって、聞こえた数字をそのまま解答する設問とは限らない。設問文に事前に目を通しておくとともに、後で落ち着いて計算し直せるよう、必要な情報をメモしておこう。

(3) 放送内容にある because of some school event の直後の but に注意。that was *not* the reason とすぐに訂正されていたので、b は不正解。

Part 2

ディクテーション問題。スペルミスや時制のミスは、単語の抜けや聞き間違い同様、配点分の減点とした。ディクテーションでは、語彙や文法の知識で減点が避けられる場合があるので、見直しを強化しよう。

(1) 品詞にまで意識を向けられたかどうかのポイントの1つだった。interested を用いた誤答が見られたが、前置詞 into の直後に続けられるのは名詞。

(2) use of を youth や useful としたものが見られたが、それでは文意が通らない。空所前後とのつながりや文全体の意味を考えて解答しよう。

2 文法・語法

文法事項は、知覚動詞、関係詞、動名詞、助動詞、受動態、形式主語構文など広い範囲を出題した。加えて、イディオムに関する設問や会話でよく用いられる定型表現も出題している。文法・語法の知識に加えて、文脈の把握が必要な設問も複数あったことに注意。

3 英作文

この大問では、語彙・文法の正確な知識と、それらを組み合わせて、条件に合った内容を英文で正しく表現する力を問うた。

A 整序英作文

1 語でも間違えているものは配点分減点とした。

(1) 関係代名詞も語群に含まれていれば the last person … (…する最後の人) を思い出せたかもしれないが、目的格の関係代名詞は省略可能。整序英作文では「省略可能な関係代名詞」の存在を意識できるようにしたい。

(2) 〈know better than to + 動詞の原形〉に関する誤りが多かった。不定詞の応用表現として押さ

えておこう。

(3) kind enough to という組み合わせは書いていても配置する位置の誤りが目立った。Would you tell me だけでも丁寧な依頼にはなるが、kind enough to …の使い方まで考えて文を組み立てた。

(4) worth の位置を誤っている答案が多かった。The painting is worth buying. など、例文ごと覚えるようにするとよい。

B 条件付き英作文

会話文の一部を埋める形式で、イラストの状況や空所前後の文脈のつながりを考えて書くことが条件。イラストから読み取れる情報を不足なく盛り込めていたか、言いたいことが採点者に伝わる英文だったか、返却された答案を振り返っておこう。

採点は、内容面と文法・語彙の面から減点法で行った。

(1) 空所前の「何があったの?」という質問に答える問題。イラスト(a), (b)から、①寝坊した、②自転車が無くなっていったという2つのポイントを含める必要がある。ポイントを押さえているが誤った情報を含むものや、空所の前後と内容が矛盾する場合は-3点、ポイントを押さえられていない場合は-6点とした。

(2) ①目覚まし機能付きのロボットであること、②そのロボットの具体的特徴を示していることの2点をポイントとし、どちらかが抜けている、または空所の前後と内容が矛盾する場合は-5点、ポイント2つともに不備がある場合は-10点とした。英作文では、スペルミスや文法面でのケアレスミスをしないう、書き終えたら必ず見直すこと。

C 和文英訳

(1), (2) ともに以下に示すパートに分け、減点法で採点を行った。

- (1) ○自分でやってみると ……2点
○のこぎりを使うのでさえ ……2点
○見かけほど簡単でない ……3点
○ことがわかりました ……2点

「見かけほど」の時制のミスが目立った。時制は最後の見直しで必ず確認しよう。

- (2) ○家具作りの楽しさ ……3点
○を息子に教える ……2点
○「には時間がかかりそうです」 ……4点

「家具」で語彙力の差が出た。スペルミスが出や

すい語だが、それとともに不可算名詞としても注意が必要なのでこの機会に覚えよう。

4 長文読解

ポーランド人の女性がヒトラーによる母国への侵攻について書いた手記の一部。比喩的な表現を含む英文において、話の展開や細かい描写が理解できているかを問うた。

(4) 今回の英文を読み進める上で、世界史の知識や一般教養が助けになる部分もあったが、下線部が表す内容としては、自分の知識をまとめるのではなく、本文の内容をまとめること。

5 長文読解

「バイオミクリー」の考え方とその活用について述べた英文。

(1) 和訳問題。以下に示すパートに分け、減点法で採点した。

○ Instead of trying to design new chemical cleaners that are less toxic ……5点

○ a team of German scientists wondered ……3点

○ how other organisms stay clean ……4点

構文はさほど複雑ではないが、design, cleaners, organisms など訳語の選択に迷う語が多いので、適切な訳語の選択ができていないものは減点対象とした。

(2) ① 含めるべきポイントは、「何と」=the structure of the lotus leaf, 「どの点で」=“mountainous” surface の2点。ポイントが1つ欠けていたら-6点とした。

② 該当箇所は rainwater washes the dirt away. rainwater, washes ~ away, the dirt にあたるものが1つ欠けるか間違えるごとに(-3)とした。

(3) ポイントとなるのは、植物と動物との間の関係で、それぞれの行動を通して物質を循環させる仕組みであること。光合成のみへの言及など、呼吸の説明がなく、双方向性を表す記述がないものは(-6)とした。

第4回 高1英語

総評

今回の試験では、リスニング、文法・語法、英作文、長文読解など多様な形式を出題し、基本的な文法・語法の知識から表現力・読解力・記述力がどの程度ついているかを試すことで、総合的な英語力を測っている。今回は特に大問4の英文が長く、小説ということもあり、読み慣れていない人は時間配分に苦労しただろう。制限時間に対する演習量が多く、厳しい内容になってはいるが、プレステージを受験する難関大の志望者であれば、高校1年生のこの時期に、これだけの問題に対応できる実力をしっかりつけてほしい。また、模試なので得点差がはっきり出るよう、設問によっては部分点を排除し、かなり厳しく採点している。得点を見て落ち込んでしまうかもしれないが、これから何を重点的に復習すれば自分の英語の総合力・得点力が伸びるのかを知ることのできる絶好のチャンスなので、大問ごとの出来や誤答の内容をきちんと確認して、今後の学習につなげよう。

問題別講評・採点基準

1 リスニング

長い英文の聴き取りに慣れていない人は、メモを取るタイミングに苦戦しただろう。放送前に設問に少しでも目を通し、注意して聞くべきキーワードやポイントをあらかじめ予測しておく取り組みやすい。聞き取りにくかった箇所については、解答解説の放送内容を音読して復習しておこう。

問題A

英問英答形式の設問で選択肢がやや長いものもあるため、聴き取る力以外に速読力も求められる出題となった。人物名がいくつか出てくるので、誰の考え・行動なのかを正確に把握する必要があった。

(2) 数字に関する問題で、センター試験と同じく、聴き取りだけでなく計算を要するものとした。月日の正しい理解も必要なので、情報の整理に時間をとられた人が多かったようだ。

問題B

「集中力」に関する説明文。concentration という単語がいたるところに出てくるのでテーマはつか

みやすかったと思うが、設問のレベルは高めに設定したので、満点は取りづらかっただろう。

Part 1

(1), (2) は特に、選択肢が複雑で、一読するとどれも正しいことを言っているように見えるため、吟味に時間がかかってしまったか。

Part 2

ディクテーション問題。スペリングミスや時制のミスは、単語の抜けや聞き間違い同様、配点分の減点とした。ディクテーションでは、語彙や文法の知識で減点が避けられる場合があるので、文法には自信がある人もここで間違えていた場合は見直しが必要である。また、既知の単語でも、音声ではうまく聞き取れないものについては音読の練習もすること。

(1) if you *will* relax とした誤答もあったが、条件を表す副詞節なので、will は使えない。feel relaxed が正しいが、SVC の C にあたる relaxed を relax という原形にしてしまい、過去分詞形の語尾の -ed の [t] の音を聞き逃した人が多かった。

(2) この設問も品詞にまで意識を向けられたかがポイントの1つだった。make a までは書けていても、difference を書けた人はごく一部であった。different とした誤答が大半だが、動詞の目的語であり、直前に冠詞 a があることから、続くのは形容詞ではなく名詞であることに気づいてほしかった。

2 文法・語法

基本的な問題を中心に、用法の詳細な理解が求められる出題とした。時制、不定詞、使役動詞、関係詞、否定、間接疑問など広範囲の文法事項に加えて、イディオムに関する設問や会話でよく用いられる定型表現も出題している。文法・語法の知識に加えて、文脈の把握が必要な設問も複数あったことに注意。

3 英作文

この大問では、語彙・文法の正確な知識と、それらを組み合わせて、条件に合った内容を英文で正しく表現する力を問うた。

A 整序英作文

スペリングミスを含め1語でも間違えているものは配点分減点とした。英作文の基本である、「主語を決定する力」を確認することを最大の目的とした。

(1) あえて文法書に出てくる例文のような文にしたので、全員に正解してもらいたかった1問。ここ

で間違えた人は、文法事項の見直しをする際に、「結果」を表す to 不定詞」とだけ覚えるのではなく、例文ごと覚えよう。

(2) take care という組み合わせは作れたが、先頭にくる saying が、直前の mother ではなく letter を修飾するという点が見抜きにくかったか。

(3) made me nervous から、主語が thought になることに気づけたかがポイント。mere の意味を知らなくて、これが主語だと勘違いした人もいるかもしれないが、日本語をきちんと読めば、「私」を主語にできない以上、「人前で話すと考えること(だけ)」を主語にする必要があると理解できたはず。

(4) 'have no choice but to +動詞の原形' と '付帯状況' を表す with の両方の知識を問う問題。

B 条件付き英作文

会話文の一部を埋める形式で、イラストの状況や空所前後の文のつながりを考えて書くことが条件。採点は、内容面と文法・語彙の面から減点法で行った。特に内容面は例年より厳しく採点したため、得点が残らない人が多かった。

(1) 空所直後の I am. Anything wrong? という返答に自然につながる内容で、かつ、イラストの状況(この会話の話題の中心となっている、エネルギーの無駄遣いに直結するもの)を答える問題。条件の多い設問のため、イラストからわかる状況であっても、「水を出しっぱなしにして無駄にしていること」に言及できていないものは(-8)とした。

(2) 内容面でのポイントは2つ。① エネルギー節約の方法として説得力があること、② 具体的なかつ身近な取り組みであること。それぞれ抜けていたら(-5)とし、内容面で減点した後に、文法・語彙の誤りを各(-1)とした。「イラストの内容とは無関係の内容」という指示により、(1)とは異なる語彙・構文の表現力を試す出題とした。このため、歯磨きの際の水の利用に限らず、water に関わる内容を書いたものは一律減点しており、今回の模試全体を通して最も厳しい1問となった。英作文では、スペリングミスや文法面でのケアレスミスをしないうように、書き終えたら必ず見直そう。

C 和文英訳

(1), (2) とともに以下に示すパートに分け、減点法で採点を行った。細かい文法ミスが目立ったので、短時間で見直しまで終える練習をしておこう。

(1) ○そんな場所での清掃は危険だからやめるよ

- う ……4点
- 何度言っても ……2点
- まったく聞き入れません ……2点
- (2) ○このような善意のおかげで ……3点
- 私たちが気持ちよく暮らせている ……2点
- ことを決して忘れないようにしたいと思います ……3点

4 長文読解

タクシー運転手との口論を、幼い息子が収めてしまう場面をユーモラスに描いた物語の一部。細かい描写を含む状況や、登場人物の心の動きを理解できているかを問うた。

(1) 和訳問題。couldn't have cared less を「…できなかった」と誤訳した解答が散見された。父親の様子との対比・話の展開から、息子の様子をイメージして、知らない表現が出てきた時に意味を推測できるようにしてほしい。

5 長文読解

「情報化社会において、情報とは理解しやすいものに変換できて初めて役に立つ」という主張を述べた論説文。

(1) 和訳問題。以下に示すパートに分け、減点法で採点した。

- They の指す内容 ……3点
- transform what life throws at them, ……4点
- rather than just taking it as it comes ……3点

構文はさほど複雑ではなく、使われている語彙も難しいものはないが、抽象的な内容であるために適切な訳語の選択ができていないものが多かった。

(3) 含めるべきポイントはそれぞれ2つ。① the hand writers ... as the typists (4点) / scored twice as well (5点)、② took away their notes as soon as it (= the lecture) was over (5点) / so students couldn't study on their own (4点) ②は盛り込むべきポイントが他にもあるように思えるが、制限字数内で必要なポイントのみを抽出してまとめることができるかどうかで差がついた。

(4) 「書物に関して」という条件があることに注意したい。explain the concepts to someone の部分を的確に答えればよい。force yourself to put it down を「(書物を)置く」ではなく「書き留める」などと誤訳したものは(-1)とした。

第5回 高1英語

総評

今回の試験では、リスニング、文法・語法、英作文、長文読解など多様な形式で出題し、基本的な文法・語法の知識から表現力・読解力・記述力がどの程度ついているかを試すことで、総合的な英語力を測っている。制限時間に対する演習量が多く、厳しい内容になってはいるが、プレステージを受験する難関大の志望者であれば、高校1年生のこの時期に、これだけの問題に対応できる実力をしっかりつけてほしい。また、模試なので得点差がはっきり出るよう、設問によっては部分点を排除し、かなり厳しく採点している。得点を見て落ち込んでしまうかもしれないが、これから何を重点的に復習すれば自分の英語の総合力が伸び、得点が上がるかを知ることのできる絶好のチャンスなので、大問ごとの出来や誤答の内容をきちんと確認して、今後の学習につなげよう。

問題別講評・採点基準

1 リスニング

英文の放送が始まる前に設問に目を通す時間を設けたので、注意して聞くべきキーワードやポイントをあらかじめ予測しておく取り組みやすい。ディクテーション以外の設問は、満点を取る生徒も見られた。聞き取りにくかった箇所については、解答解説の放送内容を音読して復習しておこう。

問題A

英問英答形式の設問であるため、聴き取る力以外に速読力も求められる。

(3) 間違えた生徒が比較的多く、誤答では圧倒的に a が多い。ユキとアヤの関係、高校でどのクラブに入っているかなどの情報を正しく理解しよう。

問題B

「野菜工場」に関する説明文。野菜工場についてニュースなどで見たことがある人にはある程度イメージがわいて解きやすかったかもしれない。

Part 1

(1) 誤答では d が多い。単独で見ると合っているような内容でも前後に合うものを選ぶ。

(4) 誤答では b が多い。野菜工場では、棚を何

段も積み上げることで収穫量を増やすことができるのだが、読み上げ文では racks of shelves あたりの聞き取りがやはり難しく感じられたのだろう。

Part 2

ディクテーション問題。スペリングミスや時制のミスは、単語の抜けや聞き間違い同様、配点分の減点とした。ディクテーションでは、語彙や文法の知識で減点が避けられる場合があるので、文法には自信がある人もここで間違えていた場合は見直しが必要である。また、既知の単語でも、音声ではうまく聞き取れないものについては音読の練習もすること。

(1) start の部分で set や stop とした誤答が多いが、前後の文脈から想像力を働かせて stop のような語は入らないと考えてほしい。また、正しい文にするには、主語 it も忘れてはいけない。

(2) not の短縮形は、最後の [t] がほとんど聞こえないため can との区別が難しい。profit は単語自体になじみがなかったようで、perfect や profect (存在しない語) などが見られた。

2 文法・語法

(3) 誤答では、a の needs to fix がほとんど。needs to be fixed であれば正解。need の目的語として不定詞か動名詞かで意味が能動・受動になるという違いがあるので注意しよう。

(4) 誤答では d の have you been marrying がほとんど。未来の時点についての会話であることに注意して選ぼう。

(8) では疑問文に mind が使われていることに注意が必要。a Yes, I will が圧倒的に多かった。

3 英作文

問題A 整序英作文

語彙・文法の正確な知識と、それらを組み合わせ、条件に合った内容を英文で正しく表現する力を問うた。

(1) (believes this study) worth spending ~としたものが目立った。ここだけを見れば 'believe + O+C' の型 (to be の省略) で成り立つが、選択肢の to と be はここで使わなければならない。

(2) It is about time ... (そろそろ...すべき時だ) の型にしてしまったものがあつた。この形自体は正しいが、about は後に続く the problem の前で使うものと判断すべきところ。(1) と同様、並べて

みてどこか文法・語法的に破綻していないかどうかを確認することが大切。

(3) We hope the time when peace can be brought will come to the world. としたものがあつた。the time を見てすぐに when を続けたくなつたのかもしれないが、後半の come to the world (この世に生まれる) の主語が the time である点が不自然となる。

(4) 日本語の読み換えがポイントだったが、Whether you succeed が主語になる点はよく捉えられていたようだ。しかし後半の how の後を you are patient としたものが目立った。

問題B 条件付き英作文

英文の一部を埋める形式で、2つのイラストの状況(相違点)を把握して的確に描写できるかどうかのポイント。採点は、内容面と文法・語彙の面から減点法で行つた。

(1) 内容面で盛り込むポイントは「①どのような場所へ行ったか(どんな場所での経験だったか)」と「②人物の表情から読み取れる気持ちや様子」の2つで、それぞれ3点ずつの配点とした。

(2) 内容面で盛り込むポイントは「①人物の表情から読み取れる気持ちや様子」と「②人物が①のようになった原因である場所の変化〔ごみの散乱〕」の2つで、それぞれ4点ずつの配点とした。

今回の条件英作文は2つのイラストを比べて述べるもので、両者とも取り上げるポイントが比較的わかりやすかつたため概ねよく書けていた。自由英作文では賛否のいずれかの立場に立って書く問題もよく出題されるので、日頃から物事を複数の目線で捉える思考訓練をしておくとうい。

問題C 和文英訳

(1), (2) ともに以下に示すパートに分け、減点法で採点を行つた。細かい文法ミスが目立つたので、短時間で見直しまで終える練習をしておこう。

(1) ○電車で2人分の席を占拠している人を見ると ……6点

○イライラします ……2点

(2) ○こういう人は～と言うのでしょうか ……3点

○立っている高齢者に気づかなかつた ……5点

○スマートフォンに目をやっていたから ……4点

「2人分の」「占拠する」「高齢者」「目をやる」など、簡単そうに見えてなかなか英語にしにくいと思われる表現が含まれている。読み換えてみると意外

に平易な表現で表せることを再確認してほしい。

4 長文読解

具体例が多く盛り込まれた説明文で、文章の構成としては読みやすいものであつたと思われるが、「ヘルス・ツーリズム」というテーマになじみがなく、読みにくいと感じた人も多かつたかもしれない。

(2) ○However, since international travel is so cheap and quick ……5点

○it is now possible to shop around ……4点

○until you find a private health service ……3点

○that is affordable ……4点

since を「…以来; …してから」のように訳している誤りがいくらか見られた。また、shop around の意味合いをつかむのに苦戦した人もいたようだ。

(5) では、誤答として a や d を選んだ人が比較的多かつたようだ。設問文の「述べられていないもの」という指示を見落とした人がいたのだろうか。

5 長文読解

いじめられっ子 Bradley が、Carla とのカウンセリングで自分が Monster と呼ばれていることをそれとなく相談していること、人を差別することを含めた Carla の世の中の見方が「宇宙人」を例にとって述べられていること、会話の最後の方で思わず Bradley が Carla への好意を漏らしてしまうことなどを読み取り、味わってほしい。小説の一部であるが、「登場人物の発言の意図」といった設問は控えた。

(2) 和訳問題。「その人たちには～が見えない」のみで that's only because の部分が抜けたものなどが見られた。

(3) 「その人も自分が怪物だと思ふようになり」「怪物のようにふるまう」の2つのポイントで採点した。後半の「怪物のようにふるまう」の部分が抜けたものが散見された。

(4) 「なぜ醜いと感じるのか」の理由を説明する設問。「美しいと思うもの」や「本物の怪物」について含めるのは的外れ。また「～なので醜いと思ふから」ではまとめ方がまずい。

(5) d の代わりに e を選んだ生徒も見られたが、d は Carla の言わば主張のような内容になっており、この物語の肝になるところである。